草作りの地位の急上昇と新しい日本畜産の進路

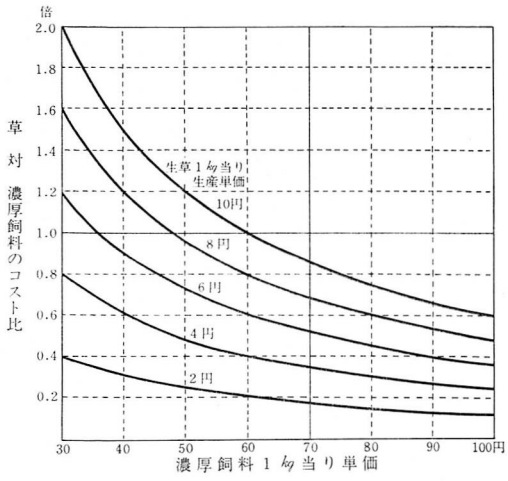
全国和牛登録協会事務局長　西　田　孝　雄

濃厚飼料価格の暴騰や各国の輸出制限の動きによって，これまで「世界中で一番安いところから，欲しいだけの餌を買い集められる」という輸入のウマ味をフルに活用して，急成長を続けてきた日本の畜産は，遽かに，その存続すら危ぶまれる程の危機に直面するに至った。

石油価格の暴騰には，より附加価値の高い製品の輸出によって対応するなどの手段が残されているが，濃厚飼料の場合，その100％が結局国内で消費され尽してしまうので，この価格暴騰による影響は石油の場合よりさらに深刻である。

しかし，ここで冷静に考えて貰いたいのは，濃厚飼料価格の暴騰は日本の畜産にとって必ずしもマイナス要因ばかりではないということである。それは，輸入飼料価格の上昇につれて，国内生産飼料，ことに「草作り」の地位も急上昇することになるからである。

濃厚飼料価格と草作りの優位性の関係



いま『濃厚飼料価格と草作りの優位性の関係の一端を試算してみると次表，次図のごとくである。すなわち，生草6kgと濃厚飼料1kgの栄養価がほぼ等しいとして計算すると，濃厚飼料が1kg 30円台の安値で入手出来た当時には，少なくとも1kg当り5～6円以下の草作りでなければ，生産コスト面の有利性は見出せなかったのであるが，今日のように，濃厚飼料が70円近くにまで急騰し，今後もどこまで高くなるか予想もできないような状態になると，昔なら濃厚飼料の2倍にもついて，とても割りに合わなかった1kg当り10円も掛るような草作りでさえ，やり様によっては，何とか採算にのる可能性が出てきたのである。まして，昔の採算限界であった1kg当り5～6円程度の草作りなら，対濃厚飼料コストは半分ぐらいにまでダウンし，素晴らしい優位性を示すに至ったことが御理解戴けるものと思う。

日本における草作りの歴史は極めて浅く，2千有余年の歴史を有する米作りに比すべくもない。また，劣悪農地，低技術，粗放管理というハンデの下で，折角恵まれた温帯気候条件も全く生かされていないというのが実情である。したがって，自から草の生産性は低く，そのコストも生草1kg当り6～8円程度と割高なものが大半で，それが，草作りは経営面ではむしろマイナスである。したがって草作り意欲が高まらないという悪循環を生んでいたように思う。現在，草作りが本格的に伸びようとしている地帯は，主として1等農地を提供して，年間反当15t程度以上の生産をあげ，生草1kg当りの生産コストを4円程度以下に下げ得た畑作地帯であり，他方それが6円以上にもつ

いている多くの人工草地地帯では，これまで相当多額の助成を得ながらも，草作りは今なお伸び悩んでいる事実などからも，この辺の事情を窺えるように思う。

ところが，昨今の如く濃厚飼料価格が上昇してくると，前記の事情は大いに変わってくる。図が示しているように，低コストの草作りが一段と優位性を高めることは勿論であるが，悪条件下で割高だった草作りほど優位性回復の度合いが大きく，これまでは採算的に利用不能であった未利用地の開発活用余地も急拡大してくるのである。またこうなれば前述の悪循環も，草作り意欲の倍増→草の生産性急向上→増頭の実現→大幅コスト・ダウンという好循環に変わって，日本の畜産の新しい進路も拓けてくるものと考えられるのである。

石油価格の暴騰によって，これまで採掘採算が合わず，眠れる宝にすぎなかった北米〜カナダのタール・サンド（砂まじり油田）が，一躍アフリカ油田の数倍の埋蔵量を誇る世界最大の石油宝庫に変わろうとしているのと，ちょうど同じ現象が，濃厚飼料価格の急騰や輸出制限措置によって起こりつつある事実の重要性に目を向けて，この好機にこそ，国内資源による地についた，日本の畜産を育てるための諸施策の大展開を願ってやまない次第である。

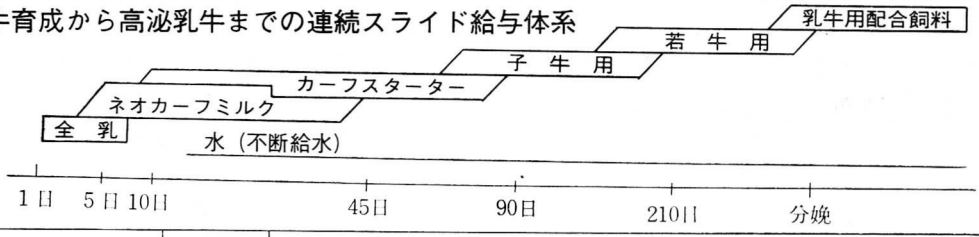
草：濃厚飼料のコスト比（倍率）

		生草1kg当り生産単価				
		2 円	4 円	6 円	8 円	10 円
濃厚飼料1kg当り単価	30円	0.4	0.8	1.2	1.6	2.0
	40円	0.3	0.6	0.9	1.2	1.5
	50円	0.24	0.48	0.72	0.96	1.2
	60円	0.2	0.4	0.6	0.8	1.0
	70円	0.17	0.34	0.51	0.69	0.86
	80円	0.15	0.3	0.45	0.6	0.75
	90円	0.13	0.27	0.4	0.53	0.67
	100円	0.12	0.24	0.36	0.48	0.60

（註）生草6kg＝濃厚飼料1kgとして試算

品質が良く利用効率の高い　雪印配合飼料

○子牛育成から高泌乳牛までの連続スライド給与体系



	品　目	粗蛋白質	特　性　と　用　途
子牛育成用飼料	ネオ・カーフミルク	26%以上	高脂肪添加代用乳，生後5日頃〜45日頃までお湯にといて1日2〜3回に分けて与えて下さい。
	カーフ・スターター	20%以上	早期離乳人工乳，7日頃〜90日頃までペレット（固型）のまま与えて下さい。
	子　牛　用	16%以上	90日頃〜7カ月頃まで，良質粗飼料と併用して与えて下さい。
	若　牛　用	13%以上	7カ月頃〜初産まで粗飼料での不足栄養分を補って下さい。
乳牛用配合飼料	雪　号	22%以上	粗飼料の種類，成分並びに乳牛の泌乳状態により選択して下さい。
	新　雪	20%以上	
	雪印18号	18%以上	
	雪印16号	16%以上	
	雪印14号	14%以上	産前，産後用にも適する。
	コーカロ	11%以上	高カロリー飼料。